

令和5年度

宮井小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基礎的・基本的な学力の向上に向けた授業の推進
- ②言語活動を充実させ、自分の考えをわかりやすく伝える児童の育成
- ③進んで学習に取り組む態度を育て、学校と家庭の連携による学習習慣の確立

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長	校長
教諭 鳥山実咲		教諭	教諭
		教諭	研修主任
		教諭	6年担任
			3年担任

校長

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○児童の漢字・計算・視写・音読などの基礎学力向上をめざし全校で取り組んでいる。漢字の読み書きや計算などの基礎学力を身に付けることが概ねできている。 ●漢字の読み書きや計算などの基礎学力の個人差が大きい。また、語彙数が少なく、文章を読むこと・書くことを苦手とする児童が見られる。	①漢字や計算などの基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。 ②進んで文章を読んだり、正しい文章表現で文を書いたりできる。	①ドリルやプリント、テストなどで児童の基礎的・基本的な知識・技能の習熟度を確認する。「くじゃくタイム」を活用し、定着を図る。個人の能力に応じて、自主学習やタブレットドリル等の課題に取り組めるようにする。 ②読み聞かせや一斉読書の時間を通して図書や新聞などに親しませ、読書活動の充実を図る。また、日記指導や作文指導を通して、正しい文章表現力を身に付けさせる。	・授業中に音読の機会を増やすなど、音声言語面でのアプローチを充実させる。 ・週1回程度図書室を利用する時間を設け、積極的に読書できる環境を整える。	①ドリル学習や小テストの定期的実施、ワークシートの工夫などで知識・技能の向上に一定の成果をあげることができた。 ②読み聞かせや音読などに取り組んできたが、依然として個人差は大きい。読書意欲や文章表現力の育成に十分つなげられたとは言えない。	①成熟度に応じてタブレット学習を促し、個に応じた指導の推進を図る。 ②新聞活用の仕方や図書室を利用する時間を提示し、積極的に読書量を増やす時間を確保する。 * 目標設定を基礎基本の定着にしほり、達成状況を明確に評価できるようにする。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に対しては、自分の意見を持ち、考えを深めることができる。 ●自分の考えや意見を相手に伝えることに消極的である。	①自分と友達の考えを比較・検討しながら聞き、自分の考えをより深めることができる。 ②目的に応じて、根拠や理由を明らかにし、筋道立てて自分の思いや考えを表現することができる。	①相手の意見を聞き、それに対する自分の考えをもつ場を適宜設定する。 ②発表の形式をスモールステップで指導し、様々な形での発表の機会を増やす。 ③成功体験を重ねることで、達成感を味わわせるとともに、安心して発表できる環境づくりを行う。	・相手の意見と自分の意見を比べ、考える場を一層確保するよう努める。	①発表の形式をスモールステップで指導し、様々な形での発表の機会を増やしたことで、自分の意見を表現しやすくなり、自分の思いや考えを伝えられる児童が増えてきた。 ②意見の理由や根拠が単純で、自分の考えを十分に深めることができていない。	①②教師が日常的に理由を問いかけたり、児童同士で理由を尋ね合うよう促したりすることで、理由を考えることを習慣づける。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に対して、真面目に取り組むことができている。 ●自分から課題を見つけて取り組むことが苦手である。また、学年に応じて家庭学習の時間を決めていたが、学年が進むにつれて、家庭学習の時間が確保できていない状況である。	①自分から課題を見つけて、楽しみながら主体的に学習に取り組むことができる。 ②自分に必要な課題や興味のある課題、家庭学習に対して、自分から前向きに取り組むことができる。	①児童の主体的な体験や活動を授業や学校生活全般に取り入れ、学習する喜びを味わうことができるようにする。(ICT機器の活用やホワイトボードミーティング等) ②「家庭学習の手引き」にそった家庭学習を定着させ、できる喜びを感じ、様々な課題に根気よく取り組む態度の育成を図る。	・一人一人の生活実態に応じて、家庭での学習環境を整えられるよう、家庭との連携を深めることを主とした支援を行う。	①特別活動の研究発表の会場校だったため、協働的な学びに主体をおきつつも、個別最適化な学びが活性化された。その結果、児童一人一人が学習する喜びを味わうことができるようになりつつあると捉えている。 ②手引きを用いることで、家庭学習は定着しつつあるが、二極化の傾向がある。昨年度から引き続き、手本となる学習ノートを紹介するなどして、意欲を喚起するように努める。	①達成状況に書いたような、令和の日本型教育の充実を目指して取り組むことにより、児童一人一人の学ぶ喜びを大切に教育活動を行う。同時に、児童の生涯を通じた幸せの実現(ウエルビーイング)のための学校教育を行う。 ②家庭訪問時に「家庭学習の手引き」をわたし、連携を深めながら、それぞれの事情に応じた取り組みを充実させる。

